

蘇る悠久の響き
新たな共生の時を

昨今の世界規模の感染症による影響は、互いに響き合う場を共有するライブの音楽活動に厳しい制約をもたらしています。この未曾有の事態は、これまでに受け継がれてきた音楽の創作の息吹をたゆまず発展させる上で危機的な事態です。

歴史的に音楽活動は世界情勢により常に左右されて来ました。しかし、それを乗り越えることによって、

時代に大きな刻印を残す貴重な作品が生まれてきました。そこで、私たちは「蘇る悠久の響き～新たなる共生の時を」というキーワードのもと、音楽活動の停滞を打破する糸口を開き、豊麗な音響空間を共有する営みとは何であるかを、4人の作曲家によるオーケストラ作品によって問いかけます。



小坂 咲子 Sakiko KOSAKA

東京藝術大学及び同大学院音楽研究科修士課程並びに博士課程作曲専攻修了。Ph.D.。学内にて長谷川賞受賞。第65回・第66回日本音楽コンクール、アルヴァレス国際作曲コンクール、ジーノ・コンティッリ国際作曲コンクール、第6回FBSビエンナーレ、第24回文化庁舞台芸術創作奨励賞(オペラ)、ACL入野記念賞、ヴァレンティノ・ブッキ、キャロルリピンスキポーランド等に入選。作曲を野田暉行、松下功、金子晋一、安倍幸明の各氏に師事。近年ではGymnasium Münchenstein レクチャーほか、近作に《zhi ji (織姫)》～室内オーケストラのための～があり2022年ロンドン初演が予定されている。これまでに藝大現代音楽のタベ・創造の杜2005、ISCM スウェーデン2009、ブランデンブルクビエンナーレ、アジア音楽祭2003・2011・2018、バーゼル室内管弦楽団演奏会等で作品が初演・再演されている。一般社団法人日本作曲家協議会、21世紀音楽の会各会員。

【主要作品】

《Tassia》～オーケストラのための～(1999)/《華蝶乱》～箏篋とオーケストラのための～(2003)/《蒼石阜》～オーケストラのための～(2005)/《細葉擦》～オーケストラのための～(2008)/《つむぎ・ひかる・いと》～箏篋、ヴァイオリン、バス・フルートのための～(2017)/《Micro roots》～室内オーケストラのための～(2018)/《zhi ji》～室内オーケストラのための～(2020)など。



小山 和彦 Kazuhiko KOYAMA

国立音楽大学作曲学科卒業時に有馬賞受賞。東京藝術大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。第56、57回日本音楽コンクール作曲部門にて入選(室内楽作品)と第2位入賞(管弦楽作品)。1997年第4回ピアノデュオ作品による国際作曲コンクール連弾部門第1位入賞。1998年第9回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門入選。2000年度ピティナ・ピアノコンペティション課題曲作曲賞(特級)、および2003年度(A1級)、2004年度(コンチェルト部門)ピティナ・ピアノコンペティションにて課題曲採用。2013～2015年宮城県登米市市民歌制定委員会委員長。2016年からYCC東北(旧ヤングコンポーザーコンサートin東北実行委員会)代表。1991～2002年国立音楽大学附属高等学校講師。1994～1996年東京藝術大学非常勤講師(音楽理論)。現在、宮城学院女子大学教授、国立音楽大学非常勤講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)評議員。特定非営利活動法人日本現代音楽協会、一般社団法人日本作曲家協議会、宮城県芸術協会、音楽表現学会各会員。

【主要作品】

交響曲(1998)/ピアノ協奏曲第1番(2008)/《風雪の舞》十三絃箏、十七絃箏五重奏のための(2009)盛岡第二高等学校委嘱作品/独奏ヴァイオリンのためのカブリッチョ(2012)/ピアノ協奏曲第2番(2013)/《道の彼方へ》ファンファーレオーケストラのための(2013)洗足学園音楽大学委嘱作品/オーケストラのための協奏曲(2015)仙台フィルハーモニー管弦楽団委嘱作品/ピアノ協奏曲第3番(2018)



平井 正志 Masashi HIRAI

1957年東京生まれ。1980年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。1982年東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了。これまでに作曲を松本民之助、松村禎三、池野成の各氏に師事。2003年5月29日に自作の室内楽作品展を開催。2011年6月11日にフィンランドのヘルシンキにて、REMINISCENCE for Chamber orchestraを発表。2011年11月11日に「境界」Boundary for Orchestraを発表。2017年11月17日にオーケストラ・プロジェクト2017で「春山白雨」Storm of Spring Mountain を発表。現在、桐朋学園大学、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師。(財)ヤマハ音楽振興会JOC創作講座講師。日本・ロシア音楽家協会会員、事務局長。アブサラス会員。<http://masashihirai.com>

【主要作品】

Storm of Spring Mountain for Orchestra / Boundary for Orchestra / Postlude for Orchestra / Highland s Fantasy for string Orchestra / REMINISCENCE for Chamber orchestra / Trio for Oboe, Cello and Piano / Rhapsody for Cello and Piano / Promenade for Flute and Piano / Promenade 2 for Violin, Cello and Piano / Promenade 3 for String orchestra / Promenade 4 for Clarinet and Piano / 木管五重奏曲 / Piano sonata / 庭の3つの情景(ピアノ・ソロ) / 無伴奏フルートの為の三章 / 二つの譚詩(オーボエ・ソロ) / 梢—三つの素描—(ピアノ・ソロ)



国枝 春恵 Harue KUNIEDA

東京生まれ。4歳より桐朋学園「子供のための音楽教室」において、ピアノとソルフェージュを習い始める。1981年東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、1983年同大学院音楽研究科作曲専攻修了。作曲を池内友次郎、野田暉行、穴戸睦郎、オリヴァー・ナッセン各氏に師事。第33回ヴィオッティ国際音楽コンクール作曲部門特別賞。作品は、ISCM-ACL 香港大会、オーストラリア大会、イスラエル大会、アジア音楽祭仙台、タンゲルウッド現代音楽祭等で演奏されている。2000年ISCM「世界の音楽の日々」ルクセンブルク大会入選。2003年文化庁特別派遣在外研修員。2005年N響委嘱作品《地上の平和》は、2009年ISCM「世界の音楽の日々」スウェーデン大会に入選。2010年アンサンブルMD7委嘱作品《レシテーションIII》は、スロヴェニア、ウニクム音楽祭、トリエステ・プリマ音楽祭で初演された。オーケストラ・プロジェクト2017年に初演された《弦楽器・打楽器・尺八のための音楽～花をIII》は、2018年ISCM「世界の音楽の日々」北京大会に入選し、北京現代音楽祭クロージングコンサートで再演された。2011年、2012年日本音楽コンクール作曲部門審査員。現在、日本現代音楽協会、21世紀音楽の会各会員、熊本大学大学院教授。<https://www.haruekunieda.com>

【主要作品】

《セラフィム》ヴァイオリンとオーケストラのための(1997, 1999) 音楽之友社刊 / カメラータ・トウキョウCD《レヴェレーション》オーケストラのための(2004) / 《地上の平和》ソプラノ、ハーブ、オーケストラのための(2005) 音楽之友社刊 / 《フィールドIII》室内オーケストラのための(1990)ダ・ヴィンチ出版社刊等。